

養を経たこれらの幹細胞が、傷害を受けた大腸粘膜の修復に寄与しうることを初めて明らかにした。また、移植細胞の分布とその性状解析の結果から、移植片内にドナー由来幹細胞が存在することが示され、組織再生能を保持する上皮幹細胞培養とこれに続く幹細胞移植治療が技術的に可能であることが明らかとなった。

E. 結論

大腸上皮幹細胞をin vitroで増やしうること、また増やした大腸上皮幹細胞が他個体の大腸上皮においても上皮幹細胞として機能し、正常な陰窩を再生しうることを明確にした。今後、ヒト大腸上皮上皮についても類似の技術を確立することにより、ヒト大腸疾患における上皮障害機構の解析ツールとして高い意義を有すると考える。また、培養大腸細胞を移植治療に利用する技術の基礎として、消化管疾患における再生医療研究に大きなインパクトを与えるものとする。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- Hyun SB, Kitazume Y, Nagahori M, Akira T, Fujii T, Tsuchiya K, Suzuki S, Okada E, Araki A, Naganuma M, Watanabe M: MR enterocolonography is useful for simultaneous evaluation of small and large intestinal lesions in Crohn's disease. **Inflam Bowel Dis.** (in press) 2010
- Kameyama K, Nemoto Y, Kanai T, Shinohara T, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Sakamoto N, Totsuka T, Hibi T, Watanabe M: Il-2 is positively involved in the development of colitogenic CD4(+) Il-7Ralpha (high) memory T cells in chronic colitis. **Eur J Immunol.** 40: 2423-2436, 2010
- Zheng X, Tsuchiya K, Okamoto R, Iwasaki M, Kano Y, Sakamoto N, Nakamura T, Watanabe M: The suppression of Hah1 gene expression directly regulated by Hes1 via Notch signaling is associated with goblet cell depletion in ulcerative colitis. **Inflammatory Bowel Diseases.** (in press) 2010
- Shinohara S, Nemoto Y, Kanai T, Kameyama K, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Totsuka T, Ikuta K, Watanabe M: Upregulated IL-7R α expression on colitogenic memory CD4+ T cells may participate in the development and persistence of chronic colitis. **J Immunol.** (in press) 2010
- Akiyama J, Okamoto R, Iwasaki M, Zheng X, Yui S, Tsuchiya K, Nakamura T, Watanabe M: Delta-like 1 expression promotes goblet cell differentiation in Notch-inactivated human colonic epithelial cells. **Biochemical and Biophysical Research Communications.** 393: 662-667, 2010

2. 学会発表

- Fujii T, Kanai T, Tomita T, Nemoto Y, Totsuka T, Naganuma M, Nagahori M, Watanabe M: FTY720 suppresses the Development of Colitis by Modulating the Trafficking of Colitogenic CD4+ T cells in Bone Marrow. 2010 Advances in Inflammatory Bowel Diseases Crohn's & Colitis Foundation's Clinical & Research Conference. Florida, 2010年12月10日
- Nakamura T, Watanabe M: A long-term, fully-defined culture system for colonic epithelial cells that allows efficient expansion of stem cell compartment. The 1st JSGE International Topic Conference -Stem Cells in Digestive Organs-. Kamakura, 2010年9月25日
- Watanabe M: Novel insight into the pathogenesis of inflammatory bowel disease. International Symposium of Advances in Medical and Surgical Treatment of Colorectal disorders 10-13 de august 2010. Chile, 2010年8月12日
- Zheng X, Tsuchiya K, Okamoto R, Iwasaki M, Kano Y, Nakamura T, Watanabe M: Hes1 via Notch signaling directly suppresses

Atoh1/Hath1 gene transcription, resulting in the goblet cell depletion of Ulcerative Colitis. DDW2010. New Orleans, 2010年5月3日

5. Watanabe M: Key issues in the pathogenesis of UC: How much do we know? 第96回 日本消化器病学会総会. Niigata, 2010年4月23日
6. 長沼 誠、渡辺 守: 難治性潰瘍性大腸炎に対するタクロリムス初期投与量と血中トラフ値の推移の検討 (多施設協同研究) . 第52回 日本消化器病学会大会. 横浜. 2010年10月14日
7. 根本泰宏、金井隆典、渡辺 守: 腸炎惹起性メモリーCD4+T細胞再循環経路をターゲットとした炎症性腸疾患の治療戦略. 第52回 日本消化器病学会大会. 横浜. 2010年10月14日
8. 長堀正和、玄 世鋒、渡辺 守: クロウン病における thioprinies 併用 infliximab 計画的維持投与例の検討と、維持困難例での methotrexate の有用性. JDDW2010. 横浜. 2010年10月13日
9. 渡辺 守: 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究. 難治性疾患克服研究推進事業研究成果発表会 難治性疾患克服研究の成果と今後. 東京. 2010年5月23日
10. 長沼 誠、長堀正和、渡辺 守: Infliximab 時代における免疫調節剤の有用性. 第96回 日本消化器病学会総会. 新潟. 2010年4月22日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特になし

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧

研究成果の刊行に関する一覧（書籍）

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
Sakiyama T, Uto H, Kanmura S, Tsubouchi H	Neutrophil-derived defensin in ulcerative colitis. In: Neutrophils.	Jamie E. DeFranco	Neutrophils: Lifespan, Functions and Roles in Disease	Nova Science Publishers	USA	375-386	2010
那須野正尚, 今井浩三	7章-10 炎症性腸疾患における癌化機序	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	330-332	2010
上野文昭	クローン病診療ガイドライン	日本消化器病学会	クローン病診療ガイドライン	南江堂	日本		2010
上野文昭	エビデンスとコンセンサスを統合した潰瘍性大腸炎のガイドライン	幕内雅敏 菅野健太郎 藤正俊	今日の消化器疾患治療指針	医学書院	日本	965 - 967	2010
上野文昭	診療ガイドラインの開発と適用	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	日本	140 - 147	2010
上野文昭	診療ガイドラインを踏まえたクローン病の内科的治療（総論）	日比紀文	炎症性腸疾患を日常診療で診る IBDとは？その診断と患者に合わせた治療	羊土社	日本	94 - 98	2011
安藤朗, 藤山佳秀	第4章 炎症性腸疾患の内科的治療：1) 診療ガイドラインを踏まえた潰瘍性大腸炎の内科治療（総論）	日比紀文 久松理一	消化器Book 02 炎症性腸疾患の日常臨床で診る	羊土社	東京	87-93	2011
辻川知之, 藤山佳秀	第4章 炎症性腸疾患の内科的治療：3) 潰瘍性大腸炎・クローン病の治療（各論）⑧経腸栄養法の実際	日比紀文 久松理一	消化器Book 02 炎症性腸疾患の日常臨床で診る	羊土社	東京	130-135	2011
藤山佳秀, 安藤朗	第7章 病因・病態 II病原微生物による感染論	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	269-275	2010
渡辺 守, 松井敏幸, 平井郁仁, 鈴木康夫, 田中信治, 花井洋行, 押谷伸英, 蘆田知史, 大草敏史, 井上 詠	炎症性腸疾患の疾患活動性評価指標集		難治性炎症性腸管障害調査研究に関する調査研究（渡辺班）平成21年度分担研究報告書別冊				2010
味岡洋一	IV 癌化	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	242-246	2010
松本譽之.	クローン病.	山口徹, 北原光夫, 福井次矢 総編.	今日の治療指針 2010年版	医学書院	東京	401-2	2010
松本譽之.	急性下痢, 非感染症を中心に.	金澤一郎, 永井良三 総編.	今日の診断指針 第6版	医学書院	東京	339-41	2010
飯室正樹.	カプセル内視鏡検査.	松田 暉, 荻原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林 直子 総編.	看護学テキスト 疾病と検査	南江堂	東京	212	2010
吉田幸治.	大腸内視鏡検査.	松田 暉, 荻原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林 直子 総編.	看護学テキスト 疾病と検査	南江堂	東京	214-7	2010
中村志郎.	小腸内視鏡検査.	松田 暉, 荻原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林 直子 総編.	看護学テキスト 疾病と検査	南江堂	東京	217-20	2010
樋田信幸, 松本譽之.	癌化・dysplasiaのサーベイランス.	日比紀文 編.	炎症性腸疾患	医学書院	東京	93-9	2010
應田義雄, 松本譽之.	合併症に対する治療.	日比紀文 編.	炎症性腸疾患	医学書院	東京	162-7	2010
福永健.	潰瘍性大腸炎.	松田 暉, 荻原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林 直子 総編.	看護学テキスト 疾患と治療 II	南江堂	東京	75-8	2010
松本譽之.	クローン病.	松田 暉, 荻原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林 直子 総編.	看護学テキスト 疾患と治療 II	南江堂	東京	78-80	2010
樋田信幸.	大腸ポリープ.	松田 暉, 荻原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林 直子 総編.	看護学テキスト 疾患と治療 II	南江堂	東京	80-2	2010

研究成果の刊行に関する一覧（書籍）

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
樋田信幸	消化管ポリポーシス	松田 暉, 荻原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林 直子 総編	看護学テキスト疾患と治療Ⅱ	南江堂	東京	82-3	2010
飯室正樹, 松本譽之	Crohn病	清野 宏 編	臨床粘膜免疫学	シナジー	東京	384-92	2010
飯室正樹, 松本譽之	知っておくべき疫学的情報	嶋田達哉編	炎症性腸疾患を日常診療で診る	羊土社	東京	16-8	2010
福永 健	白血球除去療法の進め方	嶋田達哉編	炎症性腸疾患を日常診療で診る	羊土社	東京	107-11	2010
朝倉敬子, 武林 亨	有病率・発病率・死亡率	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	248-250	2010
朝倉敬子, 武林 亨	年齢・臨床経過別頻度	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	251-253	2010
朝倉敬子, 武林 亨	発症因子としての生活因子	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	259-261	2010
飯島英樹, 辻井正彦	炎症性腸疾患の診断 2) 血液検査所見の見かた	日比紀文、久松理一	炎症性腸疾患を日常診療で診る	羊土社	東京	45	2011
飯塚政弘	エカベトナトリウム（ガストローム）の作用機序についてお教えください		臨床のあゆみ	田辺三菱製薬株式会社	大阪	7-8	2010
飯塚政弘	経管栄養のサンエット-Aとサンエット-GPIはどこが違うのですか？	鴨井久司、他	ナースが悩むQ&A	メディカルレビュー社	東京	99-102	2010
池内浩基, 内野 基, 松岡宏樹, 坂東俊宏, 竹末芳生, 富田尚裕	炎症性腸疾患における免疫調節剤と外科治療	武藤徹一郎	大腸疾患NOW	日本メディカルセンター	東京	225-232	2010
石黒 陽, 棟方昭博	潰瘍性大腸炎に対する内科的治療の実際	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	128-134	2010
石黒 陽, 棟方 昭博	治療のストラテジー、治療指針	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	110-113	2010
大川清孝, 佐野弘治	炎症性腸疾患と鑑別を要する疾患	日比紀文、久松理一	消化器Book02 炎症性腸疾患を日常診療で診る	羊土社	東京	80-86	2011
佐野弘治, 大川清孝, 上田 渉	急性出血性直腸潰瘍	斉藤裕輔、田中信治、渡邊聡明	大腸疾患診療のStrategy	日本メディカルセンター	東京	137-140	2010
松井佐織, 大川清孝, 上田 渉	Schönlein - Henoch紫斑病	斉藤裕輔、田中信治、渡邊聡明	大腸疾患診療のStrategy	日本メディカルセンター	東京	180-184	2010
大川清孝, 佐野弘治	サイトメガロウイルス腸炎（潰瘍性大腸炎以外）	赤松泰次、斉藤裕輔、清水誠治	炎症性腸疾患鑑別診断アトラス	南江堂	東京	60-63	2010
上田 渉, 大川清孝	慢性活動性EBウイルス感染症	赤松泰次、斉藤裕輔、清水誠治	炎症性腸疾患鑑別診断アトラス	南江堂	東京	82-84	2010
大川清孝	粘膜脱症候群	赤松泰次、斉藤裕輔、清水誠治	炎症性腸疾患鑑別診断アトラス	南江堂	東京	172-175	2010
大川清孝	多発する円形・不整形潰瘍	赤松泰次、斉藤裕輔、清水誠治	炎症性腸疾患鑑別診断アトラス	南江堂	東京	233-236	2010
大川清孝	多発する隆起性病変	赤松泰次、斉藤裕輔、清水誠治	炎症性腸疾患鑑別診断アトラス	南江堂	東京	237-240	2010
友政 剛	小児に対する治療、治療指針	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	148-155	2010
友政 剛	小児の疫学	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	262-265	2010
飯合恒夫, 野上 仁, 畠山勝義	炎症性腸疾患の外科治療	斉藤裕輔、田中信治、渡邊聡明	大腸疾患診療のStrategy	日本メディカルセンター	東京	404-412	2010
光山慶一	第7章 病因・病態 III. 免疫学的異常 III-5. サイトカインの関与	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	293-297	2010
渡辺憲治, 山上博一	クローン病 strategy2	日比紀文、久松理一	炎症性腸疾患を日常診療で診る	羊土社	東京	196-199	2011
渡辺憲治, 山上博一, 西下正和	Colitic cancer/dysplasia (I)	田中信治	スキルアップ大腸内視鏡	中外医学社	東京	258-261	2010
渡辺憲治, 十河光栄, 味岡洋二	UC関連dysplasia	田尻久雄、田中信治、加藤元嗣、斎藤豊	画像強調観察による内視鏡診断アトラス	日本メディカルセンター	東京	254-255	2010

研究成果の刊行に関する一覧（書籍）

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
渡辺憲治、西下正和	UC関連dysplasia	田尻久雄、田中信治、加藤元嗣、斎藤豊	画像強調観察による内視鏡診断アトラス	日本メディカルセンター	東京	254-255	2010
山上博一、渡辺憲治、荒川哲男	小腸潰瘍：腸管Behçet病	高橋信一	消化器治療薬の選び方・使い方	羊土社	東京	169-172	2010
渡辺憲治、荒川哲男	炎症性腸疾患	榭 信廣、中村哲也	カプセル内視鏡スタンダードテキスト	南江堂	東京	42-45	2010
細見周平、渡辺憲治	サイトメガロウイルス（潰瘍性大腸炎に併発）	赤松泰次、斎藤裕輔、清水誠治	炎症性腸疾患鑑別診断アトラス	南江堂	東京	56-59	2010

研究成果の刊行に関する一覧表 (論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Shinohara S, Nemoto Y, Kanai T, Kameyama K, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Totsuka T, Ikuta K, Watanabe M	Upregulated IL-7R α expression on colitogenic memory CD4+ T cells may participate in the development and persistence of chronic colitis. (in press)	J Immunol	186	2623-2632	2011
Hyun SB, Kitazume Y, Nagahori M, Akira T, Fujii T, Tsuchiya K, Suzuki S, Okada E, Araki A, Naganuma M, Watanabe M	Magnetic Resonance enterocolonography is useful for simultaneous evaluation of small and large intestinal lesions in Crohn's disease. (in press)	Inflam Bowel Dis		in press	2010
Kameyama K, Nemoto Y, Kanai T, Shinohara T, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Sakamoto N, Totsuka T, Hibi T, Watanabe M	Il-2 is positively involved in the development of colitogenic CD4(+) Il-7R α (high) memory T cells in chronic colitis.	Eur J Immunol	40:	2423-2436	2010
Zheng X, Tsuchiya K, Okamoto R, Iwasaki M, Kano Y, Sakamoto N, Nakamura T, Watanabe M	The suppression of Hathi gene expression directly regulated by Hes1 via Notch signaling is associated with goblet cell depletion in ulcerative colitis. (in press)	Inflammatory Bowel Diseases		in press	2010
Akiyama J, Okamoto R, Iwasaki M, Zheng X, Yui S, Tsuchiya K, Nakamura T, Watanabe M	Delta-like 1 expression promotes goblet cell differentiation in Notch-inactivated human colonic epithelial cells.	Biochemical and Biophysical Research Communication	393	662-667	2010
Uto H, Kanmura S, Takami Y, Tsubouchi H	Clinical proteomics for liver disease: a promising approach for discovery of novel biomarkers.	Proteome Sci	8	70	2010
Takami Y, Uto H, Tamai T, Sato Y, Ishida Y, Morinaga H, Sakakibara Y, Moriuchi A, Oketani M, Ido A, Nakajima T, Okanoue T, Tsubouchi H	Identification of a novel biomarker for oxidative stress induced by hydrogen peroxide in primary human hepatocytes using the 2-nitrobenzenesulfonyl chloride isotope labeling method.	Hepatol Res	40	438-445	2010
Kanmura S, Uto H, Sato Y, Kumagai K, Sasaki F, Moriuchi A, Oketani M, Ido A, Nagata K, Hayashi K, Stuver SO, Tsubouchi H	The complement component C3a fragment is a potential biomarker for hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma.	J Gastroenterol	45	459-467	2010
上村修司、宇都浩文、青山敏男、坪内博仁	プロテオーム解析にもとづくIBDの診断	IBD Research	4	288-293	2010
Tanaka H, Arimura Y, Yabana T, Goto A, Hosokawa M, Nagaiishi K, Yamashita K, Yamamoto H, Sasaki Y, Fujimiya M, Imai K, Shinomura Y.	Myogenic lineage differentiated mesenchymal stem cells enhance recovery from dextran sulfate sodium-induced colitis in the rat.	Journal of Gastroenterology	Sep 17.	[Epub ahead of print]	2010
Suzuki H, Igarashi S, Nojima M, Maruyama R, Yamamoto E, Kaji M, Akashi H, Watanabe Y, Yamamoto H, Sasaki Y, Itoh F, Imai K, Sugai T, Shen L, Issa JP, Shinomura Y, Tokino T, Toyota M.	IGFBP7 is a p53 responsive gene specifically silenced in colorectal cancer with CpG island methylator phenotype.	Carcinogenesis	31(3)	342-349	2010
羽根田祥, 小川 仁, 三浦 康, 内藤 剛, 安藤敏典, 矢崎伸樹, 渡辺和宏, 柴田 近, 佐々木巖	IBDにおける外科治療の現状	IBD Research	4 (1)	32-43	2010
福島浩平、佐々木巖、小川 仁、羽根田祥、渡辺和宏、神山篤史、鈴木秀幸、舟山裕士、高橋賢一、日當愛美、佐々木佳織	回腸囊炎の病因・病態と腸内細菌叢	IBD Research	4(2)	89-93	2010
小川 仁, 福島浩平, 柴田 近, 三浦 康, 羽根田祥, 林 啓一, 鈴木秀幸, 佐々木巖, 高橋賢一, 舟山裕士	C. Difficile関連難治性回腸囊炎の3例	日本消化器外科学会雑誌	43 (3)	270-276	2010
渡辺和宏, 柴田 近, 三浦 康, 内藤 剛, 小川 仁, 佐々木巖	【内科医にわかってほしいクローン病の外科治療】クローン病における短腸症候群	INTESTINE	14 (5)	485-489	2010
渡辺和宏, 小川 仁, 柴田 近, 三浦 康, 内藤 剛, 鹿郷昌之, 木内 誠, 安藤敏典, 矢崎伸樹, 田中直樹, 羽根田祥, 佐々木巖	【手術vs非手術 最新のエビデンスから】消化器疾患炎症性腸疾患.	外科	72 (13)	1508-1514	2010
Toshifumi Hibi, Fumiaki Ueno, Katsuyoshi Matsuoka, Tsung-Chun Lee	特別掲載エビデンスとコンセンサスを統合した潰瘍性大腸炎の診療ガイドライン - 英語版 - 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班プロジェクト研究グループ	IBD Research	4(3)	198 - 239	2010
松井敏幸, 上野文昭	クローン病診療ガイドライン	日本消化器病学会雑誌	107(12)	1887-1896	2010
上野文昭	潰瘍性大腸炎における5-ASA製剤開発の変遷 - エビデンスからの考察 -	新薬と臨牀	59(12)	17 - 31	2010
上野文昭	クローン病ガイドラインの使用法	IBD Research	4(1)	48 - 52	2010
上野文昭	特集潰瘍性大腸炎の最新の治療 - 潰瘍性大腸炎の治療方針	消化器の臨床方針	13(1)	19 - 24	2010
上野文昭	炎症性腸疾患の疫学	成人病と生活習慣病	40(12)	1335 - 1339	2010

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Andoh A, Imaeda H, Aomatsu T, Inatomi O, Bamba S, Sasaki M, Saito Y, Tsujikawa T, <u>Fujiyama Y.</u>	Comparison of the fecal microbiota profiles between ulcerative colitis and Crohn's disease using terminal restriction fragment length polymorphism analysis.	J Gastroenterol	Jan 21. [Epub ahead of print]		2011
Yagi Y, Andoh A, Imaeda H, Aomatsu T, Ohsaki R, Inatomi O, Bamba S, Tsujikawa T, Shimizu T, <u>Fujiyama Y.</u>	Interleukin-32 α expression in human colonic subepithelial myofibroblasts.	Int J Mol Med.	27(2)	263-268	2011
Araki Y, Mukaisyo K, Sugihara H, <u>Fujiyama Y.</u> , Hattori T.	Increased apoptosis and decreased proliferation of colonic epithelium in dextran sulfate sodium-induced colitis in mice.	Oncol Rep.	24(4)	69-74	2010
Komiyama Y, Andoh A, Fujiwara D, Ohmae H, Araki Y, <u>Fujiyama Y.</u> , Mitsuyama K, Kanauchi O.	New prebiotics from rice bran ameliorate inflammation in murine colitis models through the modulation of intestinal homeostasis and the mucosal immune system.	Scand J Gastroenterol	46(1)	40-52	2011
Ishida M, Naka S, Shiomi H, Tsujikawa T, Andoh A, Nakahara T, Saito Y, Kurumi Y, Takikita-Suzuki M, Kojima F, Hotta M, Tani T, <u>Fujiyama Y.</u> , Okabe H.	Hepatocellular carcinoma occurring in a Crohn's disease patient.	World J Gastroenterol	16(25)	3215-3218	2010
Sasaki M, Johtatsu T, Kurihara M, Iwakawa H, Tanaka T, Bamba S, Tsujikawa T, <u>Fujiyama Y.</u> , Andoh A.	Energy expenditure in Japanese patients with severe or moderate ulcerative colitis.	J Clin Biochem Nutr.	47(1)	32-36	2010
Kobori A, Bamba S, Imaeda H, Ban H, Tsujikawa T, Saito Y, <u>Fujiyama Y.</u> , Andoh A.	Butyrate stimulates IL-32 α expression in human intestinal epithelial cell lines.	World J Gastroenterol	16(19)	2355-2361	2010
Sato K, Kumita W, Ode T, Ichinose S, Ando A, <u>Fujiyama Y.</u> , Chida T, Okamura N.	OmpA variants affecting the adherence of ulcerative colitis-derived Bacteroides vulgatus.	J Med Dent Sci.	57(1)	55-64	2010
Kobori A, Yagi Y, Imaeda H, Ban H, Bamba S, Tsujikawa T, Saito Y, <u>Fujiyama Y.</u> , Andoh A.	Interleukin-33 expression is specifically enhanced in inflamed mucosa of ulcerative colitis.	J Gastroenterol	45(10)	999-1007	2010
Ban H, Andoh A, Imaeda H, Kobori A, Bamba S, Tsujikawa T, Sasaki M, Saito Y, <u>Fujiyama Y.</u>	The multidrug-resistance protein 4 polymorphism is a new factor accounting for thiopurine sensitivity in Japanese patients with inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol	45(10)	1014-1021	2010
Sugihara T, Kobori A, Imaeda H, Tsujikawa T, Amagase K, Takeuchi K, <u>Fujiyama Y.</u> , Andoh A.	The increased mucosal mRNA expressions of complement C3 and interleukin-17 in inflammatory bowel disease.	Clin Exp Immunol.	160(3)	386-393	2010
Nakase H, <u>Fujiyama Y.</u> , Oshitani N, Oga T, Nonomura K, Matsuoka T, Esaki Y, Murayama T, Teramukai S, Chiba T, Narumiya S.	Effect of EP4 agonist (ONO-4819CD) for patients with mild to moderate ulcerative colitis refractory to 5-aminosalicylates: a randomized phase II, placebo-controlled trial.	Inflamm Bowel Dis.	16(5)	731-733	2010
安藤 朗、馬場重樹、辻川知之、藤山佳秀	腸上皮下筋線維芽細胞と炎症の分子生物学	G. I. Research	19(1)	99-105	2011
福井富穂、福渡 努、奥村万寿美、岩川裕美、佐々木雅也、安藤 朗、辻川知之、藤山佳秀、柴田克己	クローン病患者におけるビタミンの摂取状況と栄養状態	日本病態栄養学会誌	13(2)	133-145	2010
辻川知之、斉藤康晴、安藤 朗、馬場重樹、青松友樹、児堀綾子、望月洋介、伴宏充、西村貴史、塩谷淳、小泉祐介、稲富理、佐々木雅也、藤山佳秀	Crohn病小腸病変の診断と経過；バルーン内視鏡の有用性と位置づけ—シングルバルーン内視鏡—	胃と腸	45(10)	1595-1603	2010
辻川知之、馬場重樹、安藤 朗、佐々木雅也、斉藤康晴、藤山佳秀	主題IIクローン病治療のアップデート；III. Crohn病腸管合併症への内科治療とその予防	日本大腸肛門学会雑誌	63(10)	869-874	2010
安藤 朗、藤山佳秀	バイオマーカーから迫るIBDの診断：サイトカイン解析によるIBDの診断	IBD Research	4(4)	307-312	2010
安藤 朗、藤山佳秀	炎症性腸疾患の今日的アプローチ：腸内細菌からみた炎症性腸疾患	成人病と生活習慣病	40(12)	1345-1350	2010
Hirai F, <u>Matsui T.</u> , Aoyagi K, Inoue N, Hibi T, Oshitani N, Kobayashi K, Suzuki Y and Tanaka S.	Validity of activity indices in ulcerative colitis: comparison of clinical and endoscopic indices.	Digest Endosc	22	39-44	2010
Hisabe T, <u>Matsui T.</u> , Miyaoka M, Ninomiya K, Ishihara H, Nagahama T, Takaki Y, Firai F, Ikeda K, Iwashita A	Diagnosis and clinical course of ulcerative gastroduodenal lesion associated with ulcerative colitis: possible relationship with pouchitis.	Digest Endosc	22	268-274	2010
Firai F, Beppu T, Sou S, Seki T, Yao K, <u>Matsui T.</u>	Endoscopic balloon dilation using double-balloon endoscopy is a useful and safe treatment for small intestinal strictures in Crohn's disease	Digest Endosc	22	200-204	2010
Murakami Y, <u>Matsui T.</u> , Hirai F, Takatsu N, Takaki Y, Nagahama T, Hisabe T, Beppu T, Miyaoka M, Maki S, Takeichi M, Nishimura T, Ueki T, Yao K	Efficacy of azathioprine in mild or moderate relapse of Crohn's disease : clinical and endoscopic evaluation.	Digest Endosc	22	25-32	2010
松井敏幸	Crohn病小腸病変に対する診断と治療の進歩	胃と腸	45	1579-1585	2010
松井敏幸、上野文昭	クローン病診療ガイドライン	日本消化器病学会雑誌	107	1887-1896	2010

研究成果の刊行に関する一覧表 (論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
平井郁仁, 松井敏幸	クローン病内科治療ガイドラインから	日本人腸肛門病学会雑誌	63	855-862	2010
矢野 豊, 平井郁仁, 松井敏幸	Crohn病はこうみる	消化器内視鏡	22	1226-1233	2010
Hokari R, Kurihara C, Nagata N, Aritake K, Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Nakamura M, Kawaguchi A, Nagao S, Urade Y, <u>Miura S.</u>	Increased expression of lipocalin-type-prostaglandin D synthase in ulcerative colitis and exacerbating role in murine colitis.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.	Epub ahead of print		2010
Higashiyama M, Hokari R, Kurihara C, Ueda T, Nakamura M, Komoto S, Okada Y, Watanabe C, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Interferon- α increases monocyte migration via platelet-monocyte interaction in murine intestinal microvessels.	Clin Exp Immunol.	162(1)	156-62.	2010
Watanabe C, Hokari R, Komoto S, Kurihara C, Okada Y, Matsunaga H, Takebayashi K, Kawaguchi A, Nagao S, Tsuzuki Y, Yokoyama H, Hibi T, <u>Miura S.</u>	Lemon grass (<i>Cymbopogon citratus</i>) ameliorates murine spontaneous ileitis by decreasing lymphocyte recruitment to the inflamed intestine.	Microcirculation.	17(5)	321-32.	2010
Hirai F, Matsui T, Aoyagi K, Inoue N, <u>Hibi T.</u> , Oshitani N, Fujii H, Kobayashi K, Suzuki Y and Tanaka S	Validity of activity indices in ulcerative colitis: comparison of clinical and endoscopic indices.	Dig Endosc	22(1)	39-44	2010
Kobayashi T, Naganuma M, Okamoto S, Hisamatsu T, Inoue N, Ichikawa H, Takayama T, Saito R, Sujino T, Ogata H, Iwao Y and <u>Hibi T</u>	Rapid endoscopic improvement is important for 1-year avoidance of colectomy but not for the long-term prognosis in cyclosporine A treatment for ulcerative colitis.	J Gastroenterol	45(11)	1129-1137	2010
Hosoe N, Kobayashi T, Kanai T, Bessho R, Takayama T, Inoue N, Imaeda H, Iwao Y, Kobayashi S, Mukai M, Ogata H and <u>Hibi T</u>	In vivo visualization of trophozoites in patients with amoebic colitis by using a newly developed endocytoscope.	Gastrointest Endosc	72(3)	643-646	2010
Yamazaki R, Mori T, Nakazato T, Aisa Y, Imaeda H, Hisamatsu T, <u>Hibi T</u> and Okamoto S	Non-tuberculous mycobacterial infection localized in small intestine developing after allogeneic bone marrow transplantation.	Intern Med	49(12)	1191-1193	2010
Kameyama K, Nemoto Y, Kanai T, Shinohara T, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Sakamoto N, Totsuka T, <u>Hibi T</u> and Watanabe M	IL-2 is positively involved in the development of colitogenic CD4(+) IL-7R α (high) memory T cells in chronic colitis.	Eur J Immunol	40(9)	2423-2436	2010
Naganuma M, Ichikawa H, Inoue N, Kobayashi T, Okamoto S, Hisamatsu T, Kanai T, Ogata H, Iwao Y and <u>Hibi T</u>	Novel endoscopic activity index is useful for choosing treatment in severe active ulcerative colitis patients.	J Gastroenterol	45(9)	936-943	2010
Takada Y, Hisamatsu T, Kamada N, Kitazume MT, Honda H, Oshima Y, Saito R, Takayama T, Kobayashi T, Chinen H, Mikami Y, Kanai T, Okamoto S and <u>Hibi T</u>	Monocyte chemoattractant protein-1 contributes to gut homeostasis and intestinal inflammation by composition of IL-10-producing regulatory macrophage subset.	J Immunol	184(5)	2671-2676	2010
Kamada N, Hisamatsu T, Honda H, Kobayashi T, Chinen H, Takayama T, Kitazume MT, Okamoto S, Koganei K, Sugita A, Kanai T and <u>Hibi T</u>	TLIA produced by lamina propria macrophages induces Th1 and Th17 immune responses in cooperation with IL-23 in patients with Crohn's disease.	Inflamm Bowel Dis	16(4):	568-575	2010
Nakamura S, Hisamatsu T, Kikuchi J, Adachi M, Yamagishi Y, Imaeda H, Hosoe N, Naganuma M, Ebinuma H, Okamoto S, Kanai T, Ogata H, Hanaoka H, Furuya Y, Kawano Y, Bokuda K, Kasamura H, Uchida H, Endo T, Hashiguchi A, Kameyama K, Mukai M and <u>Hibi T</u>	A case of IgA-related enteropathy complicated with gastrointestinal bleeding and progressive IgA nephropathy: a possible variant Henoch-Schö nlein purpura?	Intern Med	49(16)	1755-1761	2010
Mikami Y, Kanai T, Sujino T, Ono Y, Hayashi A, Okazawa A, Kamada N, Matsuoka K, Hisamatsu T, Okamoto S, Takaishi H, Inoue N, Ogata H and <u>Hibi T</u>	Competition between colitogenic Th1 and Th17 cells contributes to the amelioration of colitis.	Eur J Immunol	40(9)	2409-2422	2010
Takayama T, Kamada N, Chinen H, Okamoto S, Kitazume MT, Chang J, Matuzaki Y, Suzuki S, Sugita A, Koganei K, Hisamatsu T, Kanai T and <u>Hibi T</u>	Imbalance of NKp44(+)NKp46(-) and NKp44(-)NKp46(+) natural killer cells in the intestinal mucosa of patients with Crohn's disease.	Gastroenterology	139(3)	882-892 e1-3	2010
Ueno N, Fujiya M, Segawa S, Nata T, Moriichi K, Tanabe H, Mizukami Y, Kobayashi N, Ito K, <u>Kohgo Y.</u>	Heat-killed body of <i>Lactobacillus brevis</i> SBC8803 ameliorates intestinal injury in a murine model of colitis by enhancing the intestinal barrier function.	Inflammatory Bowel Diseases			in press
Ueno N, Fujiya M, Moriichi K, Ikuta K, Nata T, Konno Y, Ishikawa C, Inaba Y, Ito T, Sato R, Okamoto K, Tanabe H, Maemoto A, Sato K, Watari J, Ashida T, Saitoh Y, <u>Kohgo Y.</u>	Endoscopic auto-fluorescence imaging is useful for the differential diagnosis of intestinal lymphomas resembling lymphoid hyperplasia	J Clin Gastroenterol			in press
Fujiya M, Inaba Y, Musch MW, Hu S, <u>Kohgo Y.</u> , Chang EB.	Cytokine Regulation of OCTN2 Expression and Activity in Small and Large Intestine.	Inflammatory Bowel Diseases			in press

研究成果の刊行に関する一覧表 (論 文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻 (号)	ページ	出版年
Kashima S, Nata T, Fujiya M, Moriichi K, Nomura Y, Ueno N, Itabashi K, Ishikawa C, Inaba Y, Ito T, Okamoto K, Mizukami Y, Ebisawa Y, Chisato N, Kono T, Tokusashi Y, Miyokawa N, Yamada M, and Kohgo Y.	Obscure gastrointestinal bleeding occurring 50 years after an appendectomy.	Gut			in press
Inaba Y, Ashida T, Ito T, Ishikawa C, Tanabe H, Maemoto A, Watari J, Ayabe T, Mizukami Y, Fujiya M, Kohgo Y.	The expression of the anti-microbial peptide α -defensin/cryptdins in intestinal crypts decreases at the initial phase of intestinal inflammation in a model of inflammatory bowel disease, IL-10 deficient mice.	Inflammatory Bowel Diseases	16(9)	1488-95	2010
Fujiya M, Kohgo Y.	Novel perspectives in probiotic treatment: The efficacy and unveiled mechanisms of the physiological functions.	Clin J Gastroenterol	3	117-127	2010
Sakamoto J, Fujiya M, Okamoto K, Nata T, Inaba Y, Moriichi K, Tanabe H, Mizukami Y, Watari J, Ashida T, Kohgo Y.	Immunoprecipitation of nucleosomal DNA is a novel procedure to improve the sensitivity of serum screening for the p16 hypermethylation associated with colon cancer.	Cancer Epidemiology	34(2)	194-9	2010
Ikuta K, Ueno N, Hosoki T, Sato K, Honda M, Fujiya M, Torimoto Y, Yamochi T, Ota H, Kohgo Y.	Atypical mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma associated with macroglobulinemia in the transverse colon.	Internal Medicine	49(7)	677-82	2010
Sawada K, Fujiya M, Itabashi K, Suzuki Y, Kubo K, Kashima S, Nomura Y, Nata T, Ueno N, Ishikawa C, Inaba Y, Itoh T, Moriichi K, Okamoto K, Ikuta K, Tanabe H, Mizukami Y, Kohgo Y.	Collagenous colitis appeared after the 6-year administration of lansoprazole.	Clin J Gastroenterol	3	18-21	2010
Ikuta K, Torimoto Y, Yamamoto M, Okamura N, Hosoki T, Sato K, Fujiya M, Kohgo Y.	Successful Treatment of Systemic Geotrichum capitatum Infection by Liposomal Amphotericin-B, Itraconazole, and Voriconazole in a Japanese Man.	Internal Medicine	49(22)	2499-503	2010
Sasajima J, Mizukami Y, Sugiyama Y, Nakamura K, Kawamoto T, Koizumi K, Fujii R, Motomura W, Sato K, Suzuki Y, Tanno S, Fujiya M, Sasaki K, Shimizu N, Karasaki H, Kono T, Kawabe J, Ii M, Yoshiara H, Kamiyama N, Ashida T, Bardeesy N, Chung D, Kohgo Y.	Transplanting normal vascular proangiogenic cells to tumor-bearing mice triggers vascular remodeling and reduced hypoxia in tumors.	Cancer Research	70(15)	6283-6292	2010
Nakamura K, Sasajima J, Mizukami Y, Ii M, Yamazaki M, Sugiyama Y, Fujii R, Kawamoto T, Nishikawa T, Sato K, Fujiya M, Tanno S, Okumura T, Shimizu N, Kawabe J, Karasaki H, Kono T, Bardeesy N, Chung DC, Kohgo Y.	Hedgehog promotes neovascularization in pancreatic cancers by regulating Ang-1 and IGF-1 expression in bone-marrow derived pro-angiogenic cells.	PloS One	5(1)	e8824	2010
Kawamata S, Matsuzaki K, Murata M, Seki T, Matsuoka K, Iwao Y, Hibi T, Okazaki K	Oncogenic Smad3 signaling induced by chronic inflammation is an early event in ulcerative colitis-associated carcinogenesis.	Inflamm Bowel Dis	17(3)	683-695	2011
Fukata N, Uchida K, Kusuda T, Koyabu M, Miyoshi H, Fukui T, Matsushita M, Nishio A, Tabata Y, Okazaki K.	The effective therapy of cyclosporine A with drug delivery system in experimental colitis.	J Drug Target		Epub ahead of print	2010
Omiya M, Matsushita M, Tanaka T, Kawamata S, Okazaki K	The absence of large ulcer predicts latent cytomegalovirus infection in ulcerative colitis with positive mucosal viral assay.	Intern Med	49(21)	2277-2282	2010
Hoshino S, Inaba M, Iwai H, Ito T, Li M, Eric Gershwin M, Okazaki K, Ikehara S.	The role of dendritic cell subsets in 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid-induced ileitis.	J Autoimmun	34(4)	380-389	2010
Yamada A, Sono K, Hosoe N, Takada N, Suzuki Y.	Monitoring functional serum antitumor necrosis factor antibody level in Crohn's disease patients who maintained and those who lost response to anti-TNF.	Inflamm Bowel Dis	16(11)	1898-904	2010
Ito H, Iida M, Matsumoto T, Suzuki Y, Sasaki H, Yoshida T, Takano Y, Hibi T.	Direct comparison of two different mesalamine formulations for the induction of remission in patients with ulcerative colitis: a double-blind, randomized study	Inflamm Bowel Dis.	16(9)	1567-74	2010
Ito H, Iida M, Matsumoto T, Suzuki Y, Aida Y, Yoshida T, Takano Y, Hibi T.	Direct comparison of two different mesalamine formulations for the maintenance of remission in patients with ulcerative colitis: a double-blind, randomized study	Inflamm Bowel Dis.	16(9)	1575-82	2010
Yamamoto S, Nakase H, Matsuura M, Masuda S, Inui K, Chiba T	Tacrolimus therapy as an alternative to thiopurines for maintaining remission in patients with refractory ulcerative colitis.	J Clin Gastroenterol		in press	2011
Kitamura H, Yamamoto S, Nakase H, Matsuura M, Honzawa Y, Matsumura K, Takeda Y, Uza N, Nagata K, Chiba T	Role of heat shock protein 47 in intestinal fibrosis of experimental colitis.	Biochem Biophys Res Commun	404	599-604	2011
Endo Y, Marusawa H, Chiba T	Involvement of activation-induced cytidine deaminase in the development of colitis-associated colorectal cancers.	J Gastroenterol	46 (Suppl 1)	6-10	2011
Honzawa Y, Nakase H, Takeda Y, Nagata K, Chiba T	Heat shock protein 47 can be a new target molecule for intestinal fibrosis related to inflammatory bowel disease.	Inflam Bowel Dis	16	2004-2006	2010

研究成果の刊行に関する一覧表 (論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Nakase H, Honzawa Y, <u>Chiba T</u>	Heat shock protein 47 is a new candidate molecule as anti-fibrotic treatment of Crohn's disease.	Aliment Pharmacol Ther	31	926-927	2010
Yamamoto S, Nakase H, <u>Chiba T</u>	Oral Tacrolimus (FK506) in refractory paediatric colitis: authors' reply.	Aliment Pharmacol Ther	31	677-678	2010
Matsumura K, Nakase H, <u>Chiba T</u> .	Efficacy of Oral Tacrolimus on Inetestinal Behcet's Disease.	Inflamm Bowel Disease	16	188-189	2010
Akitake R, Nakase H, Tamaacki M, Ueno S, Mikami S, <u>Chiba T</u>	Modulation of Th1/Th2 balance by Infliximab Rescues Postoperative Occurrence of Small-Intestinal Inflammation Associated with Ulcerative Colitis.	Dig Dis Sci	55	1781-1784	2010
Yamamoto S, Nakase H, Matsuura M, Honzawa Y, Masuda S, Inui K, <u>Chiba T</u>	Efficacy and safty of infliximab as rescue therapy for ulcerative colitis refractory to tacrolimus.	J Gastroenterol Hepatol	25	886-891	2010
Nakase H, Fujiyama Y, Oshitani N, Oga T, Nonomura K, Matsuoka T, Murayama T, Teramukai S, <u>Chiba T</u> , Narumiya S.	Effect of EP4 agonist (ONO-4819CD) for patients with mild to moderate ulcerative colitis refractory to 5-aminosalicylates: A randomized phase 2, placebo-controlled trial.	Inflamm Bowel Dis	16	731-733	2010
Nakase H, Yoshino T, Honzawa Y, <u>Chiba T</u>	Low Prevalence of CMV Infection in Patients with Crohn's Disease in Comparison with Ulcerative colitis-Effect of different immune response on prevalence of CMV infection-.	Dig Dis Sci	55	1498-1499	2010
Shimizu T, Marusawa H, Yamashita Y	Diaphragm-like stricture of the small intestine related to cytomegalovirus infection.	Clin Gastroenterol Hepatol	8	A21	2010
Watanabe T, <u>Chiba T</u>	Defective interleukin-10 signaling in human inflammatory bowel disease.	Gastroenterology	138	2016-2018	2010
Watanabe T, Kobunai T, Ikeuchi H, Yamamoto Y, Matsuda K, Ishihara S, Nozawa K, Iinuma H, Kanazawa T, Tanaka T, Yokoyama T, Konishi T, Eshima K, <u>Ajioka Y</u> , Hibi T, Watanabe M, Muto T, Nagawa H.	RUNX3 copy number predicts the development of UC-associated colorectal cancer	Int J Oncol	38	201-207	2011
Watanabe T, <u>Ajioka Y</u> , Matsumoto T, Tomotsugu N, Takebayashi T, Inoue E, Iizuka B, Igarashi M, Iwao Y, Ohtsuka K, Kudo SE, Kobayashi K, Sada M, Matsumoto T, Hirata I, Murakami K, Nagahori M, Watanabe K, Hida N, Ueno F, Tanaka S, Watanabe M, Hibi T.	Target biopsy or step biopsy? Optimal surveillance for ulcerative colitis: a Japanese nationwide randomized controlled trial	J Gastroenterol	46	11-16	2010
<u>味岡洋一</u>	大腸癌の組織発生と発育進展様式	臨床外科	65	16-21	2010
<u>Watanabe T</u> , Konishi T, Kishimoto J, Kotake K, Muto T, Sugihara K: on behalf of the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum	Ulcerative colitis-associated colorectal cancer shows a poorer survival than sporadic colorectal cancer in japan: a nationwide Japanese study.	Inflammatory bowel diseases	17(3)	802-808	2011
<u>Watanabe T</u> , Sasaki I, Sugita A, Fukushima K, Futami K, Hibi T, Watanabe M.	Time trend and risk factors for reoperation in Crohn's disease in Japan.	Hepatogastroenterology		in press	2011
<u>Watanabe T</u> , Kobunai T, Yamamoto Y, Ikeuchi H, Matsuda K, Ishihara S, Nozawa K, Iinuma H, Kanazawa T, Tanaka T, Yokoyama T, Konishi T, Eshima K, <u>Ajioka Y</u> , Hib T, Watanabe M, Muto T, Nagawa H.	Predicting Ulcerative Colitis-associated Colorectal Cancer using Reverse Transcription-Polymerase Chain Reaction Analysis.	Clinical Colorectal Cancer		in press	2011
<u>Watanabe T</u> .	Efficacy of probe-based confocal laser endomicroscopy for surveillance in ulcerative colitis.	Endoscopy		in press	
<u>Watanabe T</u> , Sasaki I, Sugita A, Fukushima K, Futami K, Hibi T, Watanabe M.	An interval of less than 5 years between the first and the second operation is a risk factor for a third operation for Crohn's disease.	Inflammatory Bowel Diseases		in press	2011
Ishihara S, <u>Watanabe T</u> , Nagawa H.	Free colonic perforation in a Chrohn's Disease Patient with loop ileostomy - Report of a case -	International Surgery		in press	2011
<u>Watanabe T</u> , <u>Ajioka Y</u> , Matsumoto T, Tomotsugu N, Takebayashi T, Inoue E, Iizuka B, Igarashi M, Iwao Y, Ohtsuka K, Kudo SE, Kobayashi K, Sada M, Matsumoto T, Hirata I, Murakami K, Nagahori M, Watanabe K, Hida N, Ueno F, Tanaka S, Watanabe M, Hibi T.	Target biopsy or step biopsy? Optimal surveillance for ulcerative colitis: a Japanese nationwide randomized controlled trial.	Journal of Gastroenterology	46(Suppl 1)	11-16	2011
<u>Watanabe T</u> .	New approaches for early detection of ulcerative colitis (UC) associated cancer and surgical treatment of UC patients.	Recent Advances Research Update	11(2)	213-217	2010
Yamada H, Matsuda K, Kakahane T, Shimada R, Horiuchi A, Shibuya H, Aoyagi Y, Nakamura K, Hayama T, Hisae Iinuma, Nozawa K, Ishihara S, <u>Watanabe T</u> .	A Case of Fulminant Amebic Colitis with Multiple Large Intestinal Perforations.	International Surgery	95	356-359	2010

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Yoshino T, Nakase H, Matsuura M, Matsumura K, Honzawa Y, Fukuchi T, Watanabe K, Murano M, Tsujikawa T, Fukunaga K, <u>Matsumoto T</u> , Chiba T.	Effect and safety of granulocyte-monocyte adsorption apheresis for patients with ulcerative colitis positive for cytomegalovirus in Comparison with Immunosuppressants.	Digestion	84(1)	3-9	2011
Kato K, Fukunaga K, Kamikozuru K, Kashiwamura S, Hida N, Ohda Y, Takeda N, Yoshida K, Iimuro M, Yokoyama Y, Kikuyama R, Miwa H, <u>Matsumoto T</u> .	Infliximab Therapy Impacts the Peripheral Immune-system of Immunomodulator and Corticosteroid Naïve Patients with Crohn's Disease.	Gut and Liver		in press	2011
Watanabe T, Ajioka Y, <u>Matsumoto T</u> , Tomotsugu N, Takebayashi T, Inoue E, Iizuka B, Igarashi M, Iwao Y, Ohtsuka K, Kudo S, Kobayashi K, Sada M, Matsumoto T, Hirata I, Murakami K, Nagahori M, Watanabe K, Hida N, Ueno F, Tanaka S, Watanabe M, Hibi T.	Target biopsy or step biopsy? Optimal surveillance for ulcerative colitis: a Japanese nationwide randomized controlled trial.	J Gastroenterol	46(Suppl. 1)	11-6	2011
Ikeuchi H, Uchino M, Matsuoka H, Bando T, <u>Matsumoto T</u> , Tomita N, Syoji Y, Kusunoki M, Yamamura T, Utsunomiya J.	Surgery for ulcerative colitis in 1000 patients.	Int. J. Colorectal Dis.	25	959-65	2010
Ito H, Iida M, <u>Matsumoto T</u> , Suzuki Y, Sasaki H, Yoshida T, Takano Y, Hibi T.	Direct comparison of two different mesalamine formulations for the induction of remission in patients with ulcerative colitis: A double-blind, randomized study.	Inflamm. Bowel Dis.	16(9)	1567-74	2010
Ito H, Iida M, <u>Matsumoto T</u> , Suzuki Y, Aida Y, Yoshida T, Takano Y, Hibi T.	Direct comparison of two different mesalamine formulations for the maintenance of remission in patients with ulcerative colitis: A double-blind, randomized study.	Inflamm. Bowel Dis.	16(9)	1575-82	2010
Watanabe K, Hida N, Ajioka Y, Hori K, Kamata N, Sogawa M, Yamagami H, Tominaga K, Watanabe T, Fujiyama Y, <u>Matsumoto T</u> , Arakawa T.	Photodynamic diagnosis of endoscopically invisible flat dysplasia in patients with ulcerative colitis by visualization using local 5-aminolevelinic acid-induced photosensitization.	Gastrointestinal endoscopy	71(6)	1094-6	2010
Uchino M, Ikeuchi H, Matsuoka H, <u>Matsumoto T</u> , Takesue Y, Tomita N.	Long-term efficacy of stricturoplasty for crohn's disease.	Surg. Today	40	949-53	2010
Fukunaga K, Yokoyama Y, Kamikozuru K, Yoshida K, Kikuyama R, Nagase K, Nakamura S, Takei Y, Miwa H, <u>Matsumoto T</u> .	Selective depletion of peripheral granulocyte/monocyte enhances the efficacy of scheduled maintenance infliximab in crohn's disease.	Journal of Clinical Apheresis	25	226-8	2010
長瀬和子, 福永 健, 横山陽子, 上小鶴孝二, 加藤恭一, 松本譽之.	血液処理量からみたフィルタ白血球除去療法, 治療の最適化を目指して.	日本アフェリシス学会雑誌	29(2)	213-9	2010
賀来佳子, 内野 基, 坂東俊宏, 松岡宏樹, 池内浩基, 松本譽之, 竹末芳生, 富田尚裕.	Posterior reversible encephalopathy syndrome (PRES)を併発した小児潰瘍性大腸炎の1例.	日本大腸肛門病学会雑誌	63(8)	509-14	2010
戸澤勝之, 中村志郎, 松本譽之.	下血/血便をきたす下部消化管の診断・治療的アプローチの包括解説 内科の立場から.	Intestine	14(1)	7-12	2010
樋田信幸, 松本譽之.	IBD cancer/dysplasiaの内視鏡診断 典型例から診断困難例まで.	大腸疾患NOW	特別号	234-9	2010
松本譽之.	炎症性腸疾患とClostridium difficile感染の合併例における抗生剤と免疫調節薬併用療法の効果について.	Review of gastroenterology & clinical gastroenterology and hepatology	4(4)	37-40	2010
松本譽之.	5-ASA製剤による治療の実際.	消化器の臨床	13(1)	25-30	2010
戸澤勝之, 松本譽之.	潰瘍性大腸炎の治療効果の判断基準.	Medicament news	2007	6-8	2010
松本譽之.	炎症性腸疾患の最新治療と今後の展望.	日本内科学会雑誌	99(3)	60-4	2010
松本譽之.	炎症性腸疾患の免疫病態と治療法の新しい展開.	消化器と免疫	46	64-5	2010
横山陽子, 福永 健, 池内浩基, 上小鶴孝二, 加藤恭一, 吉田幸治, 應田義雄, 樋田信幸, 中村志郎, 松本譽之.	潰瘍性大腸炎における末梢血T細胞の存在と役割について.	消化器と免疫	46	91-4	2010
樋田信幸, 松本譽之.	Colitic cancer/dysplasiaの内視鏡診断.	Modern Physician	30(7)	969-72	2010
池内浩基, 内野基, 松岡宏樹, 坂東俊宏, 福田能啓, 松本譽之, 富田尚裕.	クローン病直腸肛門部における癌合併.	IBD Research	4(2)	107-12	2010
松本譽之.	IBDの最新治療2010.	CCJAPAN	57	22-6	2010
吉田幸治, 松本譽之.	内科医からみたクローン病の外科治療の適応.	Intestine	14(5)	457-61	2010
池内浩基, 内野基, 松岡宏樹, 坂東俊宏, 佐々木寛文, 富田尚裕, 竹末芳生, 福田能啓, 松本譽之.	クローン病の癌化と今後の対策.	Intestine	14(5)	505-10	2010
松本譽之.	大腸の病気はなぜおこるのか.	からだの科学	267	15-8	2010
松本譽之.	クローン病の外瘻に対するアダリムマブの治療効果.	GI Explore	11(6)	6	2010
松本譽之.	成人ヒトの脂肪組織由来の幹細胞は実験腸炎や敗血症への予防効果を示す.	GI Explore	11(6)	9	2010
松本譽之.	腸管切除術後の腸管炎症と線維化に関する新しい動物モデル: 腸内細菌叢の影響について.	GI Explore	12(1)	6	2010

研究成果の刊行に関する一覧表(論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
松本譽之.	潰瘍性大腸炎関連大腸癌におけるMHCクラスII分子.	GI Explore	12(1)	9	2010
松本譽之.	副腎皮質ステロイド依存性クローン病における sargramostim のステロイド減量効果に関するプラセボを用いた無策胃二重盲検試験.	GI Explore	12(2)	6	2010
松本譽之.	潰瘍性大腸炎における dysplasia 検出のモデル解析.	GI Explore	12(2)	9	2010
松本譽之.	血中インフリキシマブのトラフ値:急性期潰瘍性大腸炎におけるインフリキシマブ治療の臨床的有効性を予測する因子である.	GI Explore	12(3)	6	2010
松本譽之.	潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブの治療効果予測における粘膜の遺伝子パターン解析の意義.	GI Explore	12(3)	9	2010
松本譽之.	潰瘍性大腸炎の寛解維持において遅延放出性メサラミン製剤(400mg)の1日1回投与は1日2回投与と同等の有効性を示した.	GI Explore	12(4)	6	2010
松本譽之.	IBS患者において感情障害は内臓痛刺激の神経処理機構を修飾する:機能的MRI研究.	GI Explore	12(4)	9	2010
松本譽之.	マウスの炎症性腸疾患モデルにおいて骨髄系細胞と腸管上皮細胞系におけるp38 α 遺伝子欠損は異なった効果を示す.	Review of gastroenterology & clinical gastroenterology and hepatology	5(3)	13-8	2010
飯室正樹, 吉田幸治, 河野友彰, 松本譽之.	潰瘍性病変, 炎症性腸疾患.	G. I. Research	18(6)	519-27	2010
樋田信幸, 松本譽之.	直腸炎と癌に関係はあるのか.	Intestine	14(6)	619-22	2010
福永健.	炎症性腸疾患へのアフレスシスの新展開, 難治性クローン病患者への適応拡大.	日本アフレスシス学会雑誌	29(3)	235-41	2010
菊山梨紗, 福永健, 應田義雄, 中村志郎, 松本譽之.	高齢潰瘍性大腸炎患者にサイトメガロウイルス感染とニューモシスチス肺炎を合併した1例.	IBD Research	4(4)	331-7	2010
松本譽之.	炎症性腸疾患への5-ASA製剤の有用性.	成人病と生活習慣病	40(12)	1398-403	2010
Atarashi, K., Tanoue, T., Shima, T., Imaoka, A., Kuwahara, T., Momose, Y., Cheng, G., Yamasaki, S., Saito, T., Ohba, Y., Taniguchi, T., Takeda, K., Hori, S., Ivanov, I.I., Umesaki, Y., Itoh, K., Honda, K.	Induction of colonic regulatory T cells by indigenous Clostridium species.	Science	331	337-341	2011
Nakajima S, Iijima H, Shinzaki S, Egawa S, Inoue T, Mukai A, Hayashi Y, Kondo J, Akasaka T, Nishida T, Kanto T, Morii E, Mizushima T, Miyoshi E, Tsujii M, Hayashi N.	Functional analysis of agalactosyl IgG in inflammatory bowel disease patients.	Inflamm Bowel Dis		in press	2010
Nakajima S, Iijima H, Egawa S, Shinzaki S, Inoue T, Hayashi Y, Ying J, Mukai A, Akasaka T, Nishida T, Kanto T, Tsujii M, Hayashi N.	Association of Vitamin K Deficiency with Bone Metabolism and Clinical Disease Activity in Inflammatory Bowel Disease.	Nutrition		in press	
Terabe F, Fujimoto M, Serada S, Shinzaki S, Iijima H, Tsujii M, Hayashi N, Nomura S, Kawahata H, Jang MH, Miyasaka M, Mihara M, Ohsugi Y, Kishimoto T, Naka T.	Comparative analysis of the effects of anti-IL-6 receptor mAb and anti-TNF mAb treatment on CD4(+) T-cell responses in murine colitis.	Inflamm Bowel Dis	17	491-502	2011
Kondo J, Iijima H, Abe T, Komori M, Hiyaama S, Ito T, Nakama A, Tominaga K, Kubo M, Suzuki K, Iwanaga Y, Ebara R, Takeda A, Tsuji S, Nishida T, Tsutsui S, Tsujii M, Hayashi N.	Roles of double-balloon endoscopy in the diagnosis and treatment of Crohn's disease: a multicenter experience.	J Gastroenterol	45	713-20	2010
Serada S, Fujimoto M, Ogata A, Terabe F, Hirano T, Iijima H, Shinzaki S, Nishikawa T, Ohkawara T, Iwahori K, Ohguro N, Kishimoto T, Naka T.	iTRAQ-based proteomic identification of leucine-rich alpha-2 glycoprotein as a novel inflammatory biomarker in autoimmune diseases.	Ann Rheum Dis	69	770-4	2010
Obata T, Goto Y, Kunisawa J, Sato S, Sakamoto M, Setoyama H, Matsuki T, Nonaka K, Shibata N, Gohda M, Kagiya Y, Nochi T, Yuki Y, Fukuyama Y, Mukai A, Shinzaki S, Fujihashi K, Sasakawa C, Iijima H, Goto M, Umesaki Y, Benno Y, Kiyono H.	Indigenous opportunistic bacteria inhabit mammalian gut-associated lymphoid tissues and share a mucosal antibody-mediated symbiosis.	Proc Natl Acad Sci USA	107	7419-24	2010
Mizushima T, Ohno Y, Nakajima K, Kai Y, Iijima H, Sekimoto M, Nishida T, Nezu R, Ito T, Doki Y, Mori M.	Malignancy in Crohn's Disease: Incidence and Clinical Characteristics in Japan.	Digestion	81	265-270	2010
新崎信一郎, 飯島英樹, 三善英知.	糖鎖と炎症性腸疾患	生体の科学	61	122-127	2010
飯島英樹, 新崎信一郎, 中島佐知子, 三善英知, 辻井正彦	糖鎖解析にもとづくIBDの診断	IBD Research	4	18-23	2010
Sagara S, Horie Y, Anezaki Y, Miyazawa H, Iizuka M	Acute respiratory distress syndrome associated with severe ulcerative colitis	World J Gastroenterol	16	2440-2442	2010
飯塚 政弘	Her2受容体を介したシグナル伝達	分子消化器病	7	71-74	2010

研究成果の刊行に関する一覧表 (論文)

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Ikeuchi H, Uchino M, Matsuoka H, Bando T, Matsumoto T, Tomita N, Syoji Y, Kusunoki M, Yamamura T, Utsunomiya J	Surgery for ulcerative colitis in 1000 patients.	Int. J Colorectal Dis	25	959-965	2010
Uchino M, Ikeuchi H, Matsuoka H, Matsumoto T, Takesue Y, Tomita N	Long-term efficacy of stricturoplasty for Crohn's disease	Surgery Today	40	949-953	2010
Mitsui T, Sashinami H, Sato F, Kijima H, Ishiguro Y, Fukuda S, Yoshihara S, Hakamada K, Nakane A.	Salmon cartilage proteoglycan suppresses mouse experimental colitis through induction of Foxp3+ regulatory T cells.	Biochem Biophys Res Commun.	402	209-15	2010
Li YY, Ishihara S, Aziz MM, Oka A, Kusunoki R, Tada Y, Yuki T, Amano Y, Ansary MU, Kinoshita Y	Autophagy is required for toll-like receptor-mediated interleukin-8 production in intestinal epithelial cells.	Int J Mol Med.	27	337-44	2011
Kadota C, Ishihara S, Aziz MM, Rumi MA, Oshima N, Mishima Y, Moriyama I, Yuki T, Amano Y, Kinoshita Y	Down-regulation of single immunoglobulin interleukin-1R-related molecule (SIGIRR)/TIR8 expression in intestinal epithelial cells during inflammation.	Clin Exp Immunol.	162	348-61	2010
Mishima Y, Ishihara S, Aziz MM, Oka A, Kusunoki R, Otani A, Tada Y, Li YY, Moriyama I, Oshima N, Yuki T, Amano Y, Matsumoto S, Kinoshita Y	Decreased production of interleukin-10 and transforming growth factor- β in Toll-like receptor-activated intestinal B cells in SAMPl/Yit mice.	Immunology	131	473-87	2010
Oshima N, Ishihara S, Rumi MA, Aziz MM, Mishima Y, Kadota C, Moriyama I, Ishimura N, Amano Y, Kinoshita Y	A20 is an early responding negative regulator of Toll-like receptor 5 signalling in intestinal epithelial cells during inflammation.	lin Exp Immunol	159	185-98	2010
大川清孝、青木哲哉、大庭宏子、上田渉、有本雄貴、佐野弘治	診療の進歩 感染症；細菌、寄生虫	日内会誌	100(1)	71-77	2011
大川清孝、青木哲哉、大庭宏子、上田渉、有本雄貴、佐野弘治、追矢秀人	感染性腸炎の画像所見	INTESTINE	15(1)	23-30	2011
大川清孝、大庭宏子、青木哲哉、佐野弘治、上田渉	アメーバ性大腸炎	臨床肛門病学	2(2)	10-13	2010
大川清孝、青木哲哉、大庭宏子	感染性腸炎	からだの科学	267(4)	66-69	2010
大川清孝、佐野弘治、上田渉、大庭宏子、青木哲哉	抗生物質起因性大腸炎—出血性大腸炎、偽膜性腸炎、MRSa腸炎	消化器内視鏡	22(8)	1257-1261	2010
佐野弘治、大川清孝、上田渉、青木哲哉	顆粒状を呈した直腸粘膜脱症候群の1例	日本大腸肛門病学会誌	63(8)	531-534	2010
大川清孝、片山智香子、上田渉、佐野弘治、末包剛久、三宅清花、有本雄貴、後藤哲志、青木哲哉	診断困難な大腸急性炎症性疾患に対する対応 エルシニア腸炎の臨床像と画像所見による診断の進め方	INTESTINE	14(4)	385-389	2010
大川清孝、上田渉、佐野弘治、末包剛久、青木哲哉、追矢秀人	直腸肛門部の炎症性疾患 感染性腸炎の直腸肛門部病変	胃と腸	45(8)	1321-1330	2010
大川清孝、上田渉、佐野弘治、田中敏宏、松井佐織	サイトメガロウイルス腸炎	消化器内科	50(6)	505-510	2010
大川清孝、上田渉、佐野弘治	感染性腸炎の内視鏡診断	Modern Physician	30(7)	918-921	2010
有本雄貴、大川清孝、佐野弘治、上田渉	南米渡航後に寛解したクローン病の1例	IBD Research	4(2)	136-139	2010
佐野弘治、大川清孝、上田渉、丸山紘嗣、石田裕美、平松慎介、有本雄貴、三宅清花、森あろか、末包剛久、斯波将次、根引浩子、中井隆志、川崎靖子、木岡清英、山上啓子、吉岡克宜、久保勇記、井上健	難治性胃潰瘍から診断され、十二指腸、大腸にも病変を認めたサイトメガロウイルス感染症の1例	消化器内科	50(4)	394-400	2010
小谷晃平、佐野弘治、田中敏宏、松井佐織、上田渉、木岡清英、西口幸雄、久保勇紀、井上健、大川清孝	直腸への排膿により診断しえた卵巣膿瘍の1例	Gastroenterol Endosc	52(5)	1432-1437	2010
板橋道朗、大塚亮、橋本拓造、廣澤知一郎、小川真平、亀岡信悟	【必読 セカンドオピニオン】 消化管 潰瘍性大腸炎 (解説/特集)	外科	72(12)	1327-1331	2010
Endo K, Kinouchi Y, Kakuta Y, Ueki N, Takahashi S, Shimosegawa T.	Involvement of NF-kappa B pathway in TLR4 gene expression induced by lipopolysaccharide.	Cytokine	49	215-220	2010
Shiga H, Takagi S, Inoue S, Kinouchi Y, Ohkubo T, Takahashi S, Negoro K, Yokoyama H, Kato S, Fukushima K, Hiwatashi N, Tooru Shimosegawa.	What Determines the Later Clinical Course of Patients Who Do Not Undergo Colectomy at the First Attack? A Japanese Cohort Study on Ulcerative Colitis.	Digestion	81(2)	104-112	2010
Takahashi S, Takagi S, Shiga H, Umemura K, Endo K, Kakuta Y, Takahashi S, Kinouchi Y, Shimosegawa T.	Scheduled maintenance therapy with infliximab improves the prognosis of Crohn's disease: A single center prospective cohort study in Japan.	Tohoku J Exp Med	220(3)	207-215	207-215
Kanazawa Y, Saito Y, Supriatna Y, Tezuka H, Kotani T, Murata Y, Okazawa H, Ohnishi H, Kinouchi Y, Nojima Y, Ohteki T, Shimosegawa T, Matozaki T.	Role of SIRP α in regulation of mucosal immunity in the intestine.	Genes to Cells	15	1189-1200	2010
荒木俊光、吉山繁幸、大北喜基、井上幹大、内田恵一、三木誓雄、楠正人	【炎症性腸疾患-最近の動向-】潰瘍性大腸炎の外科治療	外科治療	104(1)	44-51	2011
Uchida K, Araki T, Inoue M, Otake K, Yoshiyama S, Koike Y, Matsushita K, Okita Y, Miki C, Kusunoki M.	Poor catch-up growth after proctocolectomy in pediatric patients with ulcerative colitis receiving prolonged steroid therapy.	Pediatr Surg Int.	26(4)	373-377	2010
Toiyama Y, Mizoguchi A, Okugawa Y, Koike Y, Morimoto Y, Araki T, Uchida K, Tanaka K, Nakashima H, Hibi M, Kimura K, Inoue Y, Miki C, Kusunoki M.	Intravital imaging of DSS-induced cecal mucosal damage in GFP-transgenic mice using two-photon microscopy.	J Gastroenterol.	45(4)	544-553	2010
荒木俊光、吉山繁幸、大北喜基、内田恵一、三木誓雄、楠正人	【炎症性腸疾患の病態に基づいた治療法の開発】クローン病術後治療による再手術抑制効果の検討	消化器内科	51(4)	379-385	2010

研究成果の刊行に関する一覧表（論文）

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
荒木俊光, 吉山繁幸, 大北喜基, 内田恵一, 三木賢雄, 楠 正人	【内科医にわかってほしいクローン病の外科治療】 外科医からみたクローン病の外科治療の適応	Intestine	14 (5)	463-467	2010
内田恵一, 荒木俊光, 井上幹大, 大竹耕平, 吉山繁幸, 大北喜基, 小池勇樹, 松下航平, 三木賢雄, 楠 正人	炎症性腸疾患(IBD) 治療の進歩とQOL 小児潰瘍性大腸炎の外科治療 治療の進歩とQOL	日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌	23 (2)	107-111	2010
工藤進英, 横山顕礼, 石田文夫, 遠藤俊吾, 池原伸直	内視鏡診断の現在と未来 — II c 分類、発展性、展望も含めて—	消化器外科 大腸癌診断のトピックス	33	147~157	2010
工藤進英, 三澤将史, 樫田博史, 細谷寿久, 若村邦彦, 林 武雅	外科医が気を使う高齢者手術の周術期管理 II 各論 7. 高齢者の大腸内視鏡時の注意点と対策	外科	第72巻	272-275	2010
工藤進英	大腸ESDとEMRのすみ分け 序説	INTESTINE2010	vol14 No.2	107-108	2010
工藤進英	大腸ESDとEMRのすみ分け LSTの病態/術前診断所見からみた治療法選択	INTESTINE2010	vol14 No.2	115-124	2010
大塚和朗, 工藤進英	小腸出血性疾患に対する診断手技 シングルバルーン小腸内視鏡	胃と腸	45 (3)	328-332	2010
工藤進英, 山村冬彦	小腸・大腸内視鏡 こんな時どうする一検査編 大腸内視鏡一挿入困難例への対処 a. 大腸過長による挿入困難例に対する対応 b. 伸びやすい腸の短縮	INTESTINE	VOL. 13NO3	239-241	2010
工藤進英, 細谷寿久	小腸・大腸内視鏡 こんな時どうする一検査編 大腸内視鏡一挿入困難例への対処 a. 癒着・屈曲・憩室による挿入困難例に対する対応 b. 強い屈曲による挿入困難例への対応	INTESTINE	VOL. 13NO3	253-257	2010
工藤進英, 若村邦彦	小腸・大腸内視鏡 こんな時どうする一検査編 大腸内視鏡一挿入困難例への対処 a. 用手腹部圧迫法と体位変換の有用性 b. 体位変換と用手圧迫法の基本とコツ	INTESTINE	VOL. 13NO3		2010
大塚和朗, 児玉健太, 工藤進英	小腸・大腸内視鏡 こんな時どうする一検査編 小腸内視鏡一診断能向上に向けて a. シングルバルーン内視鏡挿入困難例に対する対応 b. シングルバルーン内視鏡	INTESTINE	VOL. 13NO3	311-315	2010
樫田博史, 林 武雅, 工藤進英	側方発育型大腸腫瘍一分類と意義 深達度診断からみた 側方発育型大腸腫瘍 (LST) の分類と意義	胃と腸	第45巻第6号	969-980	2010
工藤進英, 池原伸直	早期大腸癌の精密画像診断endocytoscopy	胃と腸	第45巻第5号	860-867	2010
工藤進英, 豊嶋直也	内視鏡治療の現状と展望	特集；内視鏡・内視鏡外科治療最前線	第68巻第7号	1224-1231	2010
工藤進英	大腸がんの診断と治療	人間ドック	第25巻第1号	9-20	2010
工藤進英, 三澤将史	大腸癌内視鏡診断学の到達点 —これまでのoverviewと将来	Modern Physician	Vol. 30 No. 7	931-935	2010
工藤進英, 宮地英行	大腸ポリープ	からだの科学	267	82-86	2010
大塚和朗, 小形典之, 工藤進英	カプセル内視鏡検査の実際	Rad Fan	Vol. 8. No10	104-106	2010
工藤進英, 和田祥城	拡大観察 pit pattern、NBIを含めて	臨床外科	第65巻第11号	45-53	2010
大塚和朗, 工藤進英	炎症性腸疾患エキスパートを目指して 3) 炎症性腸疾患に伴う発がん ①潰瘍性大腸炎関連発がんの診断、サーベイランス	炎症性腸疾患を 日常診療で診る		175-179	2010
大塚和朗, 工藤進英	CT, MRIによる小腸疾患の診断	日本内科学会雑誌	第100巻1号	44-49	2010
Aoyagi Y, Nagata S, Kudo T, Fujii T, Wada M, Chiba Y, Ohtsuka Y, Yamashiro Y, Shimizu T, Ohkusa T.	Peroxisome proliferator-activated receptor gamma 2 mutation may cause a subset of ulcerative colitis.	Pediatr Int	52	729-34	2010
Fujii T, Ohtsuka Y, Yamakawa Y, Ohtani K, Kudo T, Ohtomo Y, Nagata S, Shimizu T.	Effect of mizoribine in children with inflammatory bowel disease.	Pediatr Int	52	e57-59	2010
Kudo T, Aoyagi Y, Fujii T, Ohtsuka Y, Nagata S, Shimizu T.	Development of candida albicans colitis in a child undergoing steroid therapy for ulcerative colitis.	J Pediatr Gastroenterol Nutr	51	96-99	2010
Kudo T, Aoyagi Y, Fujii T, Ohtsuka Y, Nagata S, Shimizu T.	Ulcerative colitis and aortitis syndrome.	Pediatr Int	52	e43-45	2010
Nagata S, Shimizu T, Kudo T, Tomomasa T, Tajiri H, Yoden A, Kagimoto S, Tahara T, Ushijima K, Uchida K, Kobayashi A.	Efficacy and safety of pulse steroid therapy in Japanese pediatric patients with ulcerative colitis: a survey of the Japanese Society for Pediatric Inflammatory Bowel Disease.	Digestion	81	188-92	2010
Ohtani K, Ohtsuka Y, Ikuse T, Baba Y, Yamakawa Y, Aoyagi Y, Fujii T, Kudo T, Nagata S, Shimizu T.	Increased mucosal expression of GATA-3 and STAT-4 in pediatric ulcerative colitis.	Pediatr Int	52	584-9	2010
Ohtsuka Y, Arai K, Aoyagi Y, Fujii T, Yamakawa Y, Ohtani K, Ikuse T, Baba Y, Inage E, Kudo T, Suzuki R, Nagata S, Shimizu T.	Monitoring 6-thioguanine nucleotide concentrations in Japanese children and adolescents with inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol Hepatol	25	1626-30	2010
Shono T, Kato M, Aoyagi Y, Haruna H, Fujii T, Kudo T, Ohtsuka Y, Shimizu T.	Assessment of Growth Disturbance in Japanese Children with IBD.	Int J Pediatr	2010	958915	2010

研究成果の刊行に関する一覧表（論文）

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
余田 篤, 友政 剛, 小林昭夫, 虻川大樹, 牛島高介, 鍵本聖一, 今野武津子, 清水俊明, 田尻 仁, 永田 智, 藤澤卓爾, 内田恵一, 根津理一郎, 井上 詠, 杉田 昭, 鈴木康夫, 上野文昭, 日本IBD研究会,	炎症性腸疾患(IBD) 治療の進歩とQOL 潰瘍性大腸炎の内科治療 小児のエビデンスとコンセンサスを統合した潰瘍性大腸炎の診察ガイドラインを中心に.	日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌	23	102-6	2010
Satoshi Tanida, Tsutomu Mizoshita, Takashi Mizushima, Takaya Shimura, Takeshi Kamiya, Hiromi Kataoka, Takashi Joh.	Involvement of cell proliferation induced by dual intracellular signaling of HB-EGF in the development of colitis-associated cancer during ulcerative colitis.	Ulcers in press			2010
Satoshi Tanida, Hiromi Kataoka, Tsutomu Mizoshita, Takaya Shimura, Takeshi Kamiya, Takashi Joh.	Intranuclear translocation signaling of HB-EGF C terminal fragment and mucosal defense through cell proliferation and migration in digestive tracts.	Digestion	82	145-149	2010
谷田論史, 溝下 勤, 水島隆史, 片岡洋望, 志村貴也, 神谷 武, 城 卓志	「シグナル伝達を理解するために必要な知識」第28回 EGF受容体シグナル伝達	分子消化器病	7(4)	392-395	2010
Ishige T, Tomomasa I, Takebayashi T, Asakura K, Watanabe M, Suzuki T, Miyazawa R, Arakawa H.	Inflammatory bowel disease in children: epidemiological analysis of the nationwide IBD registry in Japan.	J Gastroenterology	45(9)	911-917	2010
友政 剛	小児潰瘍性大腸炎の治療指針	小児科	51(1)	13-18	2010
龜山仁史, 飯合恒夫, 島田能史, 小林康雄, 野上 仁, 丸山 聡, 谷 達夫, 須田武保, 島山勝義	潰瘍性大腸炎術後のquality of life	日消外会誌	43(8)	777-783	2010
飯合恒夫, 龜山仁史, 野上 仁, 松澤岳晃, 谷 達夫, 島山勝義	潰瘍性大腸炎に対する外科手術	手術	64(8)	1093-1099	2010
Hiroyuki Hanai, Takayuki Iida, Ken Takeuchi, Osamu Arai, Fumitoshi Watanabe, Jinrou Abe, Yasuhiko Maruyama, Akihiko Oohata, Kentarou Ikeya, Masanobu Kakeoka, Kazuta Miwa, Satou Yoshihiko, Yoshisuke Hosoda, Takahiro Kubota.	Thiopurine Maintenance Therapy for Ulcerative Colitis - The Clinical Significance of Monitoring 6-Thioguanine Nucleotide	Inflamm Bowel Dis.	16	1378-81	2010
竹内 健, 小山繁彰, 新井 修, 飯田貴之, 阿部仁郎, 日比智弘, 小泉雅弘, 和田 健, 渡辺文利, 花井洋行	小腸クローン病に対するCT enterographyの有用性	消化器内科	50	408-413	2010
Kawaratani H, Tsujimoto T, Toyohara M, Kin K, Taniguchi T, Shirai Y, Ikenaga Y, Nakayama M, Fujii H, Fukui H	Pseudomembranous colitis complicating ulcerative colitis	Digestive Endoscopy	22	373-375	2010
辻本達寛, 藤井久男, 福井博	ダブルバルーン内視鏡検査の現況	Journal of Nara Medical Association	61(3-4)	91-100	2010
中村信治, 藤井久男, 小山文一, 中川 正, 内本和晃, 大槻憲一, 植田 剛, 中島祥介	S状結腸憩室穿孔を機に診断された直腸肛門部難治性腸管型パーチエット病の1例	日本大腸肛門病学会誌	63(5)	270-275	2010
藤井久男, 小山文一, 中川 正, 内本和晃, 中村信治, 植田 剛, 錦織直人, 中島祥介, 吉川周作, 稲次直樹	【回腸囊炎と直腸肛門病変の診断と管理】 回腸囊炎の疫学、病態とその治療	IBD Research	4(2)	81-88	2010
二見喜太郎, 東大二郎, 永川祐二, 石橋由紀子, 富安孝成, 酒井憲見, 三上公治, 二木 了, 納富かおり, 前川隆文	Crohn病に合併した肛門部病変に対する外科治療	日本大腸肛門病学会雑誌	63(10)	881-887	2010
二見喜太郎, 東大二郎, 永川祐二, 石橋由紀子, 富安孝成, 二木 了, 酒井憲見, 三上公治, 前川隆文	特集内科医にわかってほしいクローン病の外科治療 IVクローン病肛門部病変への外科治療の実際	INTESTINE	14(5)	477-484	2010
二見喜太郎, 東大二郎, 永川祐二, 富安孝成, 石橋由紀子, 酒井憲見, 三上公治, 張村貴紀, 田中亮介, 二木 了, 野田晋平, 前川隆文	特集回腸囊炎と直腸肛門病変の診断と管理: クローン病肛門病変の診断と管理	IBD Research	4(2)	26-32	2010
二見喜太郎	第4章外科的治療 VIクローン病肛門病変の治療	炎症性腸疾患編集 日比紀文医学書院		202-206	2010
Hiwatashi N, Suzuki Y, Mitsuyama K, Munakata A, Hibi T	Clinical trial: effects of an oral preparation of mesalazine at 4g/day on moderately active ulcerative colitis. A phase III parallel-dosing study	J Gastroenterol	46(1)	46-56	2011
Komiyama Y, Andoh A, Fujiwara D, Ohmae H, Araki Y, Fujiyama Y, Mitsuyama K, Kanauchi O	New prebiotics from rice bran ameliorate inflammation in murine colitis models through the modulation of intestinal homeostasis and the mucosal immune system	Scand J Gastroenterol	46	40-52	2011
Kanauchi O, Mitsuyama K, Komiyama Y, Yagi M, Akira A, Sata M	Preventive effects of enzyme-treated rice fiber in a restraint stress-induced irritable bowel syndrome model	Int J Mol Med	25(4)	547-555	2010
光山慶二, 金内 理	食物繊維と免疫	Functional Food	4(1)	23-28	2010
光山慶二, 佐田通夫	IBDとバイオマーカー - 血性抗体の意義 -	IBD Research	4(4)	274-281	2010
Fujishima Y, Nishiumi S, Masuda A, Inoue J, Nguyen GMT, Irino Y, Komatsu M, Tanaka K, Kutsumi H, Azuma T, Yoshida M.	Autophagy in intestinal epithelialum reduces endotoxin-induced inflammatory responses by inhibiting NF- κ B activation.	Arch Biochem Biophys.		in press	2011

研究成果の刊行に関する一覧表（論文）

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Shiomi Y, Nishiumi S, Ooi M, Hatano N, Shinohara M, Yoshie T, Kondo Y, Furumatsu K, Shiomi H, Kutsumi H, Azuma T, <u>Yoshida M</u>	A GCMS-based metabolomic study in mice with colitis induced by dextran sulfate sodium.	Inflamm Bowel Dis.		in press	2011
Nishiumi S, Kure I, Ishida T, Yoshie T, Ooi M, Kutsumi H, Azuma T, <u>Yoshida M</u>	Anti-inflammatory lipid mediators derived from w-6 and w-3 polyunsaturated fatty acids against inflammatory bowel diseases.	Antiinflamm Antiallergy Agents Med Chem.		in press	2011
Shiomi H, Masuda A, Nishiumi S, Nishida M, Takagawa T, Shiomi Y, Kutsumi H, Blumberg RS, Azuma T, and <u>Yoshida M</u>	IFN- γ produced by antigen-specific CD4+ T cells regulates mucosal immune response to Citrobacter rodentium infection.	Infect Immun.	78(6)	2653-66.	2010
Aomatsu T, <u>Yoden A</u> , Matsumoto K, Kimura E, Inoue K, Andoh A, Tamai H	Fecal Calprotectin is a Useful Marker for Disease Activity in Pediatric Patients with Inflammatory Bowel Disease	Dig. Dis, and Sci.		in press	2011
Nagata S, Shimizu T, Kudo T, Tomomasa T, Tajiri H, <u>Yoden A</u> , Kagimoto S, Tahara T, Ushijima K, Uchida K, Kobayashi A.	Efficacy and safety of pulse steroid therapy in Japanese pediatric patients with ulcerative colitis: a survey of the Japanese Society for Pediatric Inflammatory Bowel Disease.	Digestion.	81(3)	188-192	2010
Tomomasa T, Tajiri H, Kagimoto S, Shimizu T, <u>Yoden A</u> , Ushijima K, Uchida K, Kanek Ho, Abukawa D, Konno M, Maisawa S, Kohsaka T, Kobayashi A	Prospective open multicenter trial of leukocytapheresis in pediatric ulcerative colitis patients	J Pediatr Gastroenterol Nutr		in press	2010
余田 篤, 友政 剛, 小林昭夫, 蛇川大樹, 牛島高介, 鍵本聖一, 今野武津子, 清水俊明, 田尻 仁, 永田 智, 藤澤卓爾, 内田恵一, 根津理一郎, 井上詠, 杉田 昭, 鈴木康夫, 上野文昭,	炎症性腸疾患(IBD) 治療の進歩とQOL 潰瘍性大腸炎の内科治療 小児のエビデンスとコンセンサスを統合した潰瘍性大腸炎の診察ガイドラインを中心に	日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌	23(2)	102-106	2010
<u>Watanabe K</u> , Hida N, Ajioka Y, Hori K, Kamata N, Sogawa M, Yamagami H, Tominaga K, Watanabe T, Fujiwara Y, Matsumoto T, Arakawa T.	Photodynamic diagnosis of endoscopically invisible flat dysplasia in patients with ulcerative colitis by visualization using local 5-aminolevulinic acid-induced photosensitization.	Gastrointest Endosc	71(6)	1094-6	2010

IV. 学会発表に関する一覧

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Fujii T, Kanai T, Tomita T, Nemoto Y, Totsuka T, Naganuma M, Nagahori M, <u>Watanabe M</u>	FTY720 suppresses the Development of Colitis by Modulating the Trafficking of Colitogenic CD4+ T cells in Bone Marrow.	2010 Advances in Inflammatory Bowel Diseases Crohn's & Colitis Foundation's Clinical & Research Conference	フロリダ	2010年12月10日
Nakamura T, <u>Watanabe M</u>	A long-term, fully-defined culture system for colonic epithelial cells that allows efficient expansion of stem cell compartment	The 1st JSGE International Topic Conference -Stem Cells in Digestive Organs-	鎌倉	2010年9月25日
<u>Watanabe M</u>	Novel insight into the pathogenesis of inflammatory bowel disease	International Symposium of Advances in Medical and Surgical Treatment of Colorectal disorders 10-13 de august 2010	チリ	2010年8月12日
Zheng X, Tsuchiya K, Okamoto R, Iwasaki M, Kano Y, Nakamura T, <u>Watanabe M</u>	Hes1 via Notch signaling directly suppresses Atoh1/Hath1 gene transcription, resulting in the goblet cell depletion of Ulcerative Colitis.	DDW2010	New Orleans	2010年5月3日
<u>Watanabe M</u>	Key issues in the pathogenesis of UC: How much do we know?	第96回 日本消化器病学会総会	新潟	2010年4月23日
長沼 誠、 <u>渡辺 守</u>	難治性潰瘍性大腸炎に対するタクロリムス初期投与量と血中トラフ値の推移の検討（多施設協同研究）	第52回 日本消化器病学会大会	横浜	2010年10月14日
根本泰宏、金井隆典、 <u>渡辺 守</u>	腸炎惹起性メモリーCD4+T細胞再循環経路をターゲットとした炎症性腸疾患の治療戦略	第52回 日本消化器病学会大会	横浜	2010年10月14日
長堀正和、玄 世鋒、 <u>渡辺 守</u>	クローン病における thioprine併用 infliximab 計画的維持投与例の検討と、維持困難例での methotrexate の有用性	JDDW2010	横浜	2010年10月13日
<u>渡辺 守</u>	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	難治性疾患克服研究推進事業研究成果発表会 難治性疾患克服研究の成果と今後	東京	2010年5月23日
長沼 誠、長堀正和、 <u>渡辺 守</u>	Infliximab時代における免疫調節剤の有用性	第96回 日本消化器病学会総会	新潟	2010年4月22日
Hashimoto S, Uto H, Kanmura S, Sakiyama T, Sasaki F, Ibusuki K, Iwashita Y, Moriuchi A, Fujita H, Setoyama H, Oketani M, Ido A, <u>Tsubouchi H</u>	Human neutrophil peptide-1 aggravates dextran sulfate sodium-induced colitis	The 5th Korea-Japan Inflammatory Bowel Disease Symposium	Seoul (韓国)	2010年10月2日
Sasaki F, Ido A, Sakiyama T, Takami Y, Kumagai K, Nasu Y, Hashimoto S, Kanmura S, Moriuchi A, Uto H, Oketani M, <u>Tsubouchi H</u>	Osteoactivin expressed in intestinal macrophages negatively regulates inflammation	Digestive Disease Week 2010	New Orleans (USA)	2010年5月5日
指宿和成、寄山敏男、上村修司、前田拓郎、有馬志穂、岩下祐司、隈元亮、佐々木文郷、山路尚久、瀬戸山仁、船川慶太、井戸章雄、坪内博仁	Human neutrophil peptideは腸管上皮細胞IL-8、ICAM-1の発現を亢進させる	第52回 日本消化器病学会大会	横浜	2010年10月13日
佐々木文郷、井戸章雄、高見陽一郎、熊谷公太郎、那須雄一郎、橋元慎一、上村修司、船川慶太、寄山敏男、宇都浩文、桶谷 真、坪内博仁	マウスDSS実験腸炎モデルにおけるオステオアクチビンの役割	第52回 日本消化器病学会大会	横浜	2010年10月13日
Nasuno M, <u>Arimura Y</u> , Nakagaki S, Watanabe S, Nagaishi K, Naishiro Y, <u>Imai K</u> , Shinomura Y	Reciprocal relation tumor angiogenesis with MSC-dependent growth in colorectal cancer cell lines xenograft	The 4th Korea-Japan Inflammatory Bowel Disease Symposium	Seoul	2010年10月2日
Toyota M, Yamamoto E, Suzuki H, Kamimae S, Yamano H, Shinomura Y, <u>Imai K</u> .	The origin of colorectal cancer with CpG island methylator phenotype	101 th Annual Meeting of American Association for Cancer Research	Washington DC	2010年4月17日-21日
中垣卓、有村佳昭、篠村恭久	骨髄間葉系幹細胞は大腸癌細胞の増殖を促進させる-腫瘍細胞のVEGF発現とMSC依存性増殖の関連-	第18回日本消化器関連学会週間	横浜	2010年10月14日
Sho Haneda, Hitoshi Ogawa, Kou Miura, Takeshi Naito, Toshinori Ando, Nobuki Yazaki, Kazuhiro Watanabe, Hideaki Karasawa, Chikashi Shibata, <u>Iwao Sasaki</u>	Critical length of the small intestine to introduce home parenteral nutrition (HPN) in patients with Crohn's disease (CD) having ileostomy	European Society for Surgical Research 2010	Geneva	2010年6月10日
<u>渡辺和宏</u> 、柴田 近、三浦 康、内藤剛、小川 仁、鹿郷昌之、木内 誠、安藤敏典、矢崎伸樹、田中直樹、羽根田祥、佐藤 学、舟山裕士、高橋賢一、福島浩平、 <u>佐々木巖</u>	クローン病術後の短腸症候群症例の検討	第65回日本大腸肛門病学会総会	浜松	2010年11月26日
羽根田祥、小川 仁、三浦 康、内藤剛、木内 誠、安藤敏典、矢崎伸樹、 <u>渡辺和宏</u> 、田中直樹、佐藤 学、柴田近、 <u>佐々木巖</u>	当科で施行している在宅中心静脈栄養療法の検討	第65回日本大腸肛門病学会総会	浜松	2010年11月26日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
羽根田祥, 小川 仁, 佐々木巖	当科での在宅中心静脈栄養療法の検討	JDDW2010	横浜	2010年10月16日
羽根田祥, 小川 仁, 三浦 康, 内藤剛, 安藤敏典, 矢崎伸樹, 渡辺和宏, 唐澤秀明, 柴田 近, 佐々木巖	回腸瘻造設後のクローン病(CD)の残存小腸長からみた在宅中心静脈栄養(HPN)導入基準の検討	第65回日本消化器外科総会	下関	2010年7月16日
羽根田祥, 小川 仁, 三浦 康, 内藤剛, 鹿郷昌之, 木内 誠, 安藤敏典, 矢崎伸樹, 田中直樹, 渡辺和宏, 唐澤秀明, 柴田 近, 佐々木巖	回腸瘻を造設したクローン病症例におけるHome parenteral nutrition (HPN)導入基準の検討 ー残存小腸長の観点からー	第96回日本消化器病学会総会	新潟	2010年4月24日
福島浩平, 渡辺 守, 佐々木巖	Crohn病の長期予後改善を目的とした臨床研究体制の構築とその推進	第96回日本消化器病学会総会	新潟	2010年4月22日
Ueno F	Therapeutic Guidelines of Ulcerative Colitis in Japan	The 5th Japan-Korea IBD symposium	Sheraton Grande Walkerhill, Seoul, Korea	2010年10月2日
Yoshida Y, Takatsuka K, Ueno E, Kobayashi K, Fujikawa T, Matsui K, Shimizu H, Iwabuchi S	Role of Single-balloon Enteroscopy in the Management of Crohn's Disease with Small Intestinal Stenosis after Administration of Infliximab.	The 5th Japan-Korea IBD symposium	Sheraton Grande Walkerhill, Seoul, Korea	2010年10月2日
Tsujikawa T, Andoh A, Fujiyama Y, Nakamura S, Matsumoto T, Hosoe N, Suzuki Y, Hirai F, Matsui T.	Exhaustive analysis of inflammation, nutrition, and oxidative stress in Crohn's disease during induction therapy.	UEGW 2010	Centro de Convenciones Internacionales de Barcelona (CCIB)	2010年10月24日~30日
Kuzuoka H, Andoh A, Suzuki Y, Matsui T, Fujiyama Y, Matsumoto T.	Fecal microbiota showed remarkably skewing in patients with Crohn's disease by terminal restriction fragment length polymorphism analysis.	UEGW 2010	Centro de Convenciones Internacionales de Barcelona (CCIB)	2010年10月24日~29日
Imaeda H, Andoh A, Bamba S, Tsujikawa T, Fujiyama Y.	Inflammatory cytokines regulate Delta-like 1, Delta-4, Jagged-1 in murine and human colonic subepithelial myofibroblast.	The 1st JSGE International Topic Conference	鎌倉パークホテル	2010年9月25日
Beppu T, Hirai F, Matsui T	Usefulness of endoscopic balloon dilation with infliximab for colorectal strictures in patients with Crohn's disease	The 5rd Japan-Korea IBD Symposium	Korea	2010年10月2日
Hisabe T, Ninomiya K, Matsui T	Wireless capsule endoscopy in patients with ulcerative colitis	1st International Conference on Capsule Endoscopy and Double Balloon Endoscopy	France	2010年8月27日
矢野 豊, 平井郁仁, 松井敏幸	クローン病患者に伴う癌の標準化発生比の検討	第52回日本消化器病学会総会	横浜	2010年10月13日
松井敏幸	クローン病の治療	日本大腸肛門病学会第19回教育セミナー	横浜	2010年5月16日
Sato Shingo, Hokari Ryota, Hozumi Hideaki, Ueda Toshihide, Higashiyama Masaaki, Okada Yoshikiyo, Kurihara Chie, Watanabe Chikako, Nakamura Mitsuyasu, Wakabayashi Kanji, Kawaguchi Atsushi, Nagao Shigeaki, Miura Soichiro	Effect of different kind of dietary lipid on glucagon-like peptide-2 (GLP-2) concentration in intestinal lymph of rats.	Digestive Disease Week	New Orleans	2010年5月4日
Hozumi Hideaki, Hokari Ryota, Sato Shingo, Ueda Toshihide, Higashiyama Masaaki, Okada Yoshikiyo, Kurihara Chie, Watanabe Chikako, Wakabayashi Kanji, Nakamura Mitsuyasu, Kawaguchi Atsushi, Nagao Shigeaki, Miura Soichiro	Increased expression of autotaxin/lisophospholipase D in intestinal mucosa of Crohn's disease patients.	Digestive Disease Week	New Orleans	2010年5月4日
東山正明, 高本俊介, 穂苺量太, 三浦総一郎, 緒方 衝	潰瘍性大腸炎と鑑別を要するヒト腸管スピロヘータ症	第2回日本ブラキスピラ学会学術集会	東京	2010年7月1日
井上悌仁, 成松和幸, 佐藤伸悟, 早坂健司, 佐藤宏和, 安武優一, 八月朔日秀明, 上田俊秀, 東山正明, 中村光康, 渡辺知佳子, 若林寛二, 穂苺量太, 川口 淳, 三浦総一郎, 永尾重昭	内視鏡で小腸病変を観察し得た Schonlein-Henoch 紫斑病(SHP)の3例	第90回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2010年6月12日